英語で論文を書いてみよう

英語で論文・レポートを書くときに押さえておきたいポイント

■ はじめに

皆さんは授業などで英語で論文・レポートを書いた経験はありますか。英語論文と聞くと、書くのが難しいと感じる方が多いと思いますが、きちんとポイントを押さえておくと、論理的な文章を書くことができます。今回は、上村妙子、大井恭子著『英語論文・レポートの書き方』を参考に、英語論文を書く際に押さえておいた方が良いポイントを紹介したいと思います。

■ パラグラフの構成

英語論文でよく使われる「パラグラフ」とは、エッセイを構成する一つの段落のようなものです。上村、大井は「１つのパラグラフでは１つのアイディアを述べることが重要である（p. 73)」(『英語論文・レポートの書き方』）と述べており、論文を書く場合は大抵複数のパラグラフが必要になります。英語のパラグラフは、1. トピックセンテンス、2. サポートセンテンス、3. 結びの文という三つの要素から構成されています。特に、トピックセンテンスはパラグラフの中でも重要な要素です。

■ トピックセンテンスとは

トピックセンテンスは、そのパラグラフの中で「中心となるテーマを伝える（p. 73)」（同上）という役割を持っています。しかし、単にテーマを伝えるだけでなく、紹介したいテーマについての自分の意見も含める必要があります。

トピック（話題）
＋　書き手の考え（controlling idea）
＝　よいトピック・センテンス
(p. 74) 同上

例）
トピック「studying English」
書き手の考え「difficult」
トピックセンテンス「studying English is difficult...」

上記の例文はあくまでも最低限の例です。学位論文に相応しいトピックセンテンスを書きたい場合は、上記に加えて、より明確なテーマを示すためにコントローリングアイディアの内容を絞り込むことをお勧めします。

■ 英語論文、エッセイの構成

先ほども紹介しましたが、英語論文は複数のパラグラフから成り立っており、「1 つの主題のもとに、次の 3 つの部分から構成されて(p. 76)」（同上）います。

（１）序論（introduction）
（２）本論（body）
（３）結論（conclusion）

まず、序論では論文のテーマを明確にすると共に、その分析に必要となる一般的な背景知識を与えます。また、この論文で明らかにしたい問いと論文の方向性について主題文（Thesis statement）として述べます。その次の本論の部分では、実際に自分が分析した事柄を丁寧に詳しく説明し、論を展開していきます。結論では、本論の内容を簡潔にまとめつつ、違う表現を用いてもう一度自分の意見を主題文として述べます。結論では今まで展開してきた議論以外の情報を持ち出さないようにします。

■ 引用、参考文献に関して

英語論文作成時においてよく使われるマニュアルとしては APA スタイルと MLA スタイルがあります。『英語論文・レポートの書き方』の第七章「引用の仕方、参考文献のスタイル」にも関連する情報が載っていますので参考にしてみてください。また、引用や参考文献の書き方にはさまざまなルールがあり、改訂などもあるため、常に最新のマニュアルハンドブックを参照することをお勧めします。

■ 最後に

今回の学修ガイドは『英語論文・レポートの書き方』という本の内容を元に作成しました。本書は簡潔でわかりやすいため、英語論文の執筆が初めての方にはとてもおすすめの一冊です。図書館にも所蔵されているので興味がある方は読んでみてください。この学修ガイドが少しでも皆さんの参考になれば幸いです。

参考文献

上村妙子、大井恭子『英語論文・レポートの書き方』, 研究社, 2004.

（地域共創研究科　アメリカ文学系　M2）